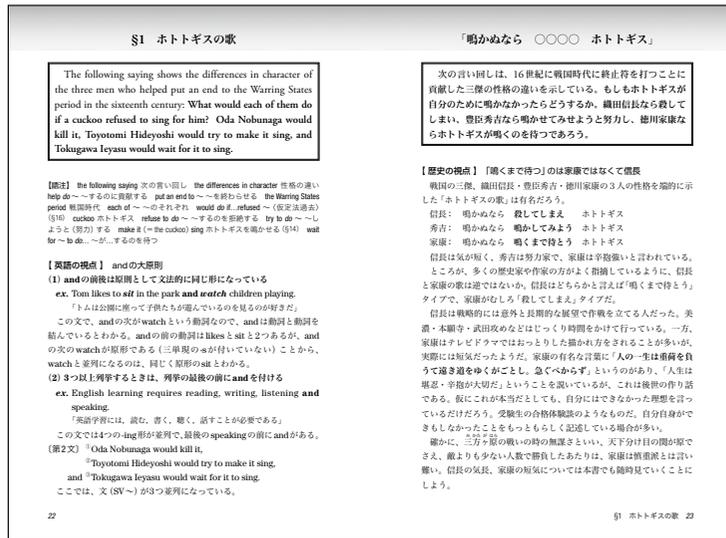


本書の構成

どの項目も左右見開きで、左ページがその項のテーマに基づく英文と語句の注釈（語注）と英文中の重要事項の解説（英語の視点）、右ページが英文の和訳とそのテーマで扱った歴史内容に対する背景やエピソード、諸先生方の最新の研究成果や新説の紹介（歴史の視点）で構成されている。



【英文】

課題となる英文にはおよそ5～8行から成る文章を掲げた。あまり長い文だと気が重くなって途中で挫折してしまう人が出てくるのではないかとこの配慮から短めの英文にしてある。本書はあくまでも英語を母国語としない人のためのものであり、やる気を持続させながら、また歴史を楽しみながら、最後まで読破することによって英語力をつけていただくことを第一目標に掲げるからである。

【語注】(単語・熟語・決まり文句)

社会人になってから英語学習をしばらく離れていた方でも容易に読み進んでいただけるように、基本単語の意味も記しておいた。また、何度

も出てくる単語も、極力その都度繰り返し拾っておいたので、本書を順不同で興味のあるところから読みたい方でも読み進めていけるように配慮してある。一方、受験や各種試験などのため本格的に英語学習をしようとしている読者のために、語法や決まり文句で覚えた方がよいものにはそのような見出しを設けてある。例えば動詞の語法で、目的語に(人)が来ることまでおさえておきたい語にはそうした表記をしている。

【英語の視点】

英文から、今後の英文読解において役立つ構文その他(文法・語法)を簡潔に説明してある。本書はただ単に歴史の説明を英語にただけではなく、英語の構文学習書としても十分に通用する内容になっている。高校レベルまでにおさえておかなければならない構文(仮定法・the比較級～、the比較級...・there is no doingなど)は全て網羅されており、難しめの日本人がつまづきやすい盲点(見せかけのhave to・遠方修飾・倒置・熟語くずし・連鎖関係代名詞など)も扱っている。これ1冊をこなすだけでも相当の構文力・読解力が身につくはずである。

【日本文】(課題となる英文の和訳)

歴史物ということを踏まえて、訳語には日本史用語や時代劇言葉が所々出てくるが、なるべく現代人にもわかる程度にとどめたつもりである。難解なものは、続けて()内に解説を付している。

【歴史の視点】

英文で扱った舞台の背景や数多くの歴史家や小説家の先生方の意見もふんだんに取り上げ、筆者が長年にわたって勉強し続けてきた成果を、なるべく客観的かつ簡潔に書き上げたつもりである。読者のみなさんの歴史的好奇心も充足していただけたらと思う。参考文献も紹介してあるので、興味を持たれた方は是非ともそちらを参照していただきたい。

なお、本書の巻末には信長・秀吉・家康を中心とする三種類の年表を付した。読者の興味に応じて大いに活用していただきたい。